

# 10分の1 戦艦「大和」



10分の1 戦艦「大和」は、実際の「大和」を10分の1の大きさで、限りなく実物に近づけて造った模型です。たとえば、甲板<sup>かんぱん</sup>に張られた木の木目<sup>もくめ</sup>も10分の1になる木材を選んでいきます。一枚一枚、手作業で張りつけました。

建造にあたっては、設計図面がほとんど残っていないことからさまざまな困難もありましたが、できる限り集めた設計資料、写真、元乗組員への聞き取り調査をもとに、細かいところまで再現しました。

船体は実際の造船所で造られ、進水式<sup>しんすいしき</sup>もおこない、曳き船にひかれて大和ミュージアムまでやってきました。10分の1 戦艦「大和」が置かれた「大和ひろば」はドック<sup>どく</sup>を表しており、「大和」がドックに入っているかのように展示をしています。

「大和」建造にたずさわったあらゆる人々や乗組員とその家族の思い、そして、平和の尊さを伝えていくシンボルとして造られた10分の1「大和」は、近代化産業遺産・日本遺産に認定されています。



10分の1 戦艦「大和」



10分の1「大和」には人形が6体乗っているんだ！探してみよう！



<sup>1</sup> 艦船<sup>かんせん</sup>の上部にあつて、木や鉄板を張りつめた広く平らな床<sup>ゆか</sup>。デッキ。

<sup>2</sup> 新しい船を水上に浮かばせるときに行われる儀式<sup>ぎしき</sup>（行事）のこと。船の誕生を祝う式典。

<sup>3</sup> 船を建造し、進水<sup>しんすい</sup>（新しくつくった船を水上に浮かべること）させるための巨大な施設。水門<sup>すいもん</sup>（必要に応じて開閉し、水の流出入<sup>りゅうしゅつにゅう</sup>を調節するための門）が開くと水が入り、船が浮かぶ仕組みになっています。